

越の大徳 泰澄 伝説

1 出生

白鳳^{はくほう}11年（682年）越前国麻生津三十八社^{うまれ}で誕生。

父は福井三十八社^{さんじゅうはつしや}町の役人であった三神安角^{みかみやすすみ}、母は大野郡石徹白村^{いとしろ}（現岐阜県白鳥町）の杉本良之助の娘、伊野。次男として生まれる。幼名及び、泰澄以前の名は不明

※ 母は福井市南江守の舟渡し人、与兵衛の娘、伊野で三神家に女中として働いていたとき、安角が手を付けて産ませた子との説有り。

※ 三十八社の川の渡守であった三神安角のもとに大野在所の杉本良之助の娘、伊野が嫁入りして生まれた子との説有り。いずれにしても出生は不明。以後、文中で名は大師を用いる。

2 道昭に学ぶ （11 歳）

大師、11歳のとき、河内国の老僧道昭^{どうしょう}が越前布教のおり、見出され仏法を教授される。

※ 道昭・・・遣唐使として入唐。玄奘三蔵^{げんじょうさんざう}に師事する。日本での法相宗^{ほうそうしゅう}の祖。

※ 法相宗・・・玄奘三蔵の弟子、基^きが開いた宗派。興福寺、薬師寺、法隆寺が本山、

3 大師 越智山開創 （17 歳）

大師、11歳のとき、夢のお告げあり

「汝今知るや、我はすなわち汝が本師なり。住所は西方に在り、汝が座する蓮華^{れんげ}はすなわち聖観世音所持^{しょうかんぜおん}の花なり、汝比丘^{びく}の形を以て十一面観世音菩薩の徳を施すべし」
大師目が覚め、さっそく其の翌日夢のお告げによって三十八社から西方にある越智山に登る。17歳のとき坂本の岩洞の中にこもり、十一面観世音像を彫刻して安置したのが苦行の始まりとされている。

※ 聖観世音・・・衆生救済^{しゅじょう}の菩薩。

※ 比丘・・・男子の出家者

※ 十一面観世音菩薩・・・衆生から一切の苦しみを解放する。観音菩薩^{へんげしん}の變化身のひとつ。

※ 越智山・・・越前町。標高 613 メートル。

4 文武天皇より「越の大徳鎮護国家法師となす」の綸旨^{もんむ}を賜る （21 歳）

大師 21 歳のとき大^{たい}宝^{ほう}2 年 (702 年)、文武天皇から勅使として伴^{はん}の安^{やす}曆^{まろ}が越前国に下向し大師を越智山に訪ね天皇よりの「越の大徳鎮護国家法師となす」の論旨を賜へる。

- ※ 鎮護国家・・・仏法の力により国家を護る。
- ※ 伴の安曆・・・最高位は大納言兼大將軍。大^{たい}宝^{ほう}2 年自のときは式^{しき}部^ぶ卿^{きやう}。
- ※ 式部卿・・・文官を統括する長官。
- ※ 綸旨・・・藏^{くらうど}人 (天皇の秘書官) が天皇の意を受けて発給する命令文書。

5 大師、豊原寺を建立 (21 歳)

大^{たい}宝^{ほう}2 年、越智山より東方を眺めていると紫雲たちこめる靈峰あり。弟子の臥^ふ行^{ぎやう}者^{しや}を伴い、丸岡^{のうね}の長畝の豊原山に登った。山中に泉あり、その中に紫雲石を見つけ、その石に十一面觀世音菩薩像を彫刻して一字を建立し本尊として祀った。大師が始めて建てた寺が豊原寺である。

大師はその後大^{おお}己^{おの}貴^{むち}命^{のみこと}を合^{ごう}祀^しされ、越前唯一の名刹^{めいさつ}となって、その後は白^{はく}山^{さん}三^{さん}所^{じや}権^{ごん}現^{げん}等を祀^{まつ}って豊原八社権現と称されるに至った。

大師は豊原寺を創建した後、再び越智山に戻り、織田町、越前町に寺院を建立し、その数十九院三十六坊あったと記されている。

- ※ 臥行者・・・能登七尾の生まれ。名は小^こ沙^さ弥^や。神通力の持ち主
- ※ 大^{おお}己^{おの}貴^{むち}命^{のみこと}・・・国土の守護神。別名大^{おお}国^{くに}主^{ぬし}命^{のみこと}
- ※ 白^{はく}山^{さん}三^{さん}所^{じや}権^{ごん}現^{げん}・・・本^{ほん}地^ち垂^{すい}迹^{じゃく}に基づく思想。神仏習合の神
白^{はく}山^{さん}妙^{みょう}理^り権^{ごん}現^{げん} (十一面觀音菩薩の變化身)
菊^く理^{すり}媛^{ひめ}神^{のかみ} (別名 白^{しら}山^{やま}比^ひ咩^め神^{のかみ} 聖^{しょう}觀^{くわん}音^{おん}菩^ぼ薩^{さつ}の變化身)
大^{おお}己^{おの}貴^{むち}命^{のみこと} (大^{おお}己^{おの}貴^{むち}命^{のみこと}に同じ。阿^あ弥^み陀^だ如^{にょ}來^うの變化身)
本^{ほん}地^ち垂^{すい}迹^{じゃく}・・・日本^やの八^や百^お万^{よろず}の神々は様々な仏が化身して日本^やの地^ちに現れた
権^{ごん}現^{げん}であるという思想。
- ※ 権^{ごん}現^{げん}・・・日本^やの神^{かみ}の神^{かみ}号^{ごう}のひとつ。日本^やの神^{かみ}々は仏^{ぶつ}が仮^{かり}の姿^{すがた}で現れたとする。

6 大師、白^{かい}山^{ざう}開^{かい}創^{そう} (35 歳)

靈^{れい}龜^き2 年 (716 年)、夢に天女 (イザナミ) が紫雲の中に現れて「汝、白^{こう}山^{ほう}の高^{こう}峰^{ほう}に来るべし」と告げる。大師、翌年の養老元年 (717 年) 臥^ふ行^{ぎやう}者^{しや}と淨^{きよ}定^{さだ}行^{ぎやう}者^{しや}を連れて越智山を下られ白^{はく}山^{さん}に向かった。一行が白^{はく}山^{さん}の登^{のぼ}山^{さん}口^{ぐち}である勝^{かち}山^{さん}に到着すると、天女が再び現れ、「此^この地^ちの林^{りん}泉^{せん}は我が遊^{あそ}止^どの地^ちであって、我^{われ}は常^{じやう}時^じ天^{てん}嶺^{りやう}に住^すいし、時々此^この処^{ところ}を中^{なかつ}居^ぐとなす。一度天^{てん}嶺^{りやう}に来るべし」と告げた。

大師はそのお告げによって林泉を見出し、その池泉から清水が湧き出していたので平泉と名

付けた。

大師一行は天女のお告げに従い、道なき所を苦勞を重ねて登山し、山頂に達しようとした時、近くに洞穴を見つけ、その洞穴に入ると十一面觀世音自在尊じゅういちめんかんぜおんじざいそんが出現し、大師は非常に喜び、後世の人々のために御利益ごりやくを与えたまえと、尊像を祀り千日の間苦行することになった。

大師一行は洞穴内にて修行中、6月に再び平泉寺に下山し、十一面觀世音菩薩はくさんみょうりと白山妙利大権現像を自ら彫刻し、一字いちじうを建立して安置したのが白山神社の起源である。

※ 開創・・・寺院を創設すること。

※ イザナミ・・・日本神話の女神。

※ 浄定行者・・・元船頭かみのべきよさだ。神部浄定。臥行者と並び、泰澄の二大弟子。

※ 林泉・・・世を遁れて隠れ住む地

※ 十一面觀世音自在尊・・・觀音菩薩のこと

※ 白山妙利大権現・・・女神。十一面觀音菩薩の化身神。

7 元正天皇げんしょうてんのうの悩のう病びようを治す (41歳)

大師の人徳は各地に広まり奈良の都にまで聞こえるようになった。養老6年(722年)、元正天皇(女帝)が悩病に伏し、国中から名医、修験者、修行僧をよび、治療、祈願するも一向に快方の兆しが現れなかった。

「越の大徳」の噂が帝の側近の耳に入り、大師は宮中によびだされた。大師が修しゅう法ほうに遵したがって三さん鈇こをもって加持祈祷したところ、天皇の悩病は全快平癒した。天皇は大師に深く帰依し、神融じんゆう禪ぜん師じ号ごうを与えた。その功により、伽藍がらんの建立を認められた。大師は瀬田で不思議な霊木を見つけ、千手觀音の尊像を彫り、此の地に伽藍を建立し、御本尊として修めた。

大津いわまてらの岩間寺(西国23番霊場の12番目)である。

※ 悩病・・・鬱うつ病びよう

※ 三鈇・・・密教における法具のひとつ。金属製で杵きねの形をして両端が三つにわかれている。

※ 神融禪師号・・・靈験あらたかな禪師の尊称。

8 行基ぎょうき、白山に大師を訪ねる。(44歳)

神龜2年(725年)、「越の大徳神融禪師」が白山で修業していると聞いた行基(57歳)

は勝山平泉寺より白山に登り、山頂で大師と仏法を論議した。

行基は北方より下り、加賀の山中に宿泊し、さらに山代に宿泊した。それらの地で温泉の湧き出ること知る。山中、山代は行基によって発見された温泉となった。

行基は加賀より若狭に向かう道中で清水町杉谷に逗留し^{こうぜんじ} 広善寺、^{みょうしんあん} 妙心庵を建立した。

※行基・・・河内国生まれ。15歳で出家し、飛鳥寺で道昭より^{ほつそうしゅう}法相宗を学ぶ。おもに近畿地方で貧民救済、河川改修、架橋工事に尽力する。東大寺大仏建立の勧進に携わる。天平17年(745年)、行基77歳の時朝廷より最高位「大僧正」の位を授けられた。81歳^{にゅうじゃく}入寂。
※ 入寂・・・僧侶の死。

9 大師、^{ほうそうびょう} 疱瘡病治療に尽くし、「泰澄」の号を与えられる (55歳)

天平3年(731年)全国に疱瘡が蔓延し、多くの死亡者がでた。大師は神仏に祈願し、熱心に治療に尽くしたので人々は大師を疱瘡の神と呼ぶようになった。天平8年(736年)^{しょう} 聖武天皇より勅命がくだり、大師は^{ふせり} 臥と^{きよさだ} 浄定の二人の弟子を伴って奈良に上り、一心に^{じゅういち} 十一面^{めんかんぜおんしちせい} 観世音七星^{げんししゅう}の法を^{だいわしやうい} 厳修した。その仏縁が効を現わし蔓延するのを食い止めるに至ったことにより聖武天皇は「大和尚位」並びに「泰澄」号を与えた。以後泰澄を名乗る。

※ 十一面観世音七星・・・北斗七星を神格化し守護神とした。

※ 厳修・・・儀式をおごそかに行う。

10 泰澄大師、^{げんぼう} 玄昉を訪ねる。(55歳)

天平8年(736年)、泰澄大師は奈良の興福寺に臥行者と浄定行者を伴って、^{ぎす} 座主の玄昉を訪ね、唐より^{きやうろん} 経論5千巻の拝読を願った。大師は^{きやうどう} 経堂にこもり、5千巻をすべて読破した。

※ 座主・・・住職の最高位。後年、天台宗における最高位の称号に用いられる。

※ 経論・・・^{きやうどう} 釈迦の教えを説いた^{きやうざう} 経蔵と、その解釈、注釈である^{ろんざう} 論蔵。

※ 玄昉・・・遣唐使として入唐。在唐18年。帰国後は聖武天皇に重用される。

11 泰澄大師、奈良より平泉寺に帰郷。(59歳)

泰澄大師一行は奈良を発ち、京都から若狭国に入り、大飯郡中山に3年間逗留し中山寺を創建した。その後、同郡、^か 加斗村に^{いもりじ} 飯守寺、三方郡東村佐田に^{ほうしゅんいん} 芳春院を建立した。さらに敦賀、武生を経て勝山の平泉寺に天平12年10月(740年)に帰郷した。2年後の天平14年に入ると越中国に寺院、神社を建立した。現存する寺院は^{かいぜんでら} 海禅寺、^{せんじゆじ} 千手寺、^{こうせいじ} 光誓寺、^{こうきゅうじ} 光久寺、^{かくがんじ} 各顔寺、^{じやうらくじ} 常楽寺、^{さいえんじ} 西円寺、^{えいふくじ} 永福寺、^{あんごじ} 安居寺、^{ずいせんじ} 瑞泉寺、^{さいしやうじ} 西照寺。神社としては^け 気多神

社、越中白山総社がある。その他にも泰澄大師が関わった村社、無格社などが各地にある。

12 泰澄大師、越智山大谷寺に帰山 (77 歳)

天平宝字^{てんぴやうほうじ}2 年 (758 年)、白山平泉寺を後にして越智山に帰り、山麓の大谷に移住した。若き日々最初に修行した地に帰山した大師は以前建立した堂宇^{どうう}を改築し、十一面観世音、三所大権現、不動明王、更に白山大権現を合祀して老後の生活を、この清浄適地^{せいじやうてきち}に住することを喜び、仏前供養の日々をおくっていた。或る日、大谷寺前の蓮池の蓮の花が咲き始めたのを見て、仏前に供えようと折り取ったとき、蓮の茎から白い糸が出るのを見て、試しに織ってみると立派な織物ができあがった。その後、近くの地で織らせ、その地を織田と呼んだ。織田町の起源である。

尚、その蓮糸は始めて大谷寺の蓮池から生じたので、この村を糸が生まれる村と言い、現在は丹生郡糸生村^{いとむら}と呼んでいる。宮崎村江波では草庵を結び、七十九種の観音像を安置して五穀豊穰^{ごこくほうじやう}を祈願した。その寺は岩本観音と呼ばれている。

日本海の海岸を巡^{じゆんしやく}錫したとき、越前町の厨^{くりや}の浜にきたとき、不動明王と三面大黒天像の二尊像を祀り西徳寺とした。この厨の浜より玉川村の海辺に大きな岩窟に入り、自作の十一面観音の仏像を安置した。玉川の観音像である。越廼村の山頂に専西寺^{せんさいじ}があるが、この寺は泰澄が建立し、十一面観世音菩薩を納めたものである。

※ 清浄適地・・・清らかで仏法修行に適した地。

※ 不動明王・・・虚空^{こくう}にあまねく存在するという真言密教の教主の大日如来の化身神。

※ 三面大黒天・・・正面に大黒天、右面に毘沙門天^{びしゃもんてん}、左面に弁才天^{べんざいてん}の三つの顔をもつ大黒天。

※ 真言密教・・・真言宗の秘密の教え。祈祷、呪詛も含まれる。

※ 巡錫・・・各地を巡り歩いて教えを広めること。錫は僧、修験者が持つ杖、錫杖^{しやくじやう}のこと。

13 泰澄大師の入寂 (86 歳)

丹生郡糸生村大谷寺に帰山して 9 年目の神護景雲元年 (767 年)、86 歳にて此の大谷寺境内、釈迦堂の東山の岩屋に入り座禅修行のまま入寂した。3 月 18 日であった。大谷寺では荘厳な葬式が行われ、遺骨を岩屋内に納め、その後、九重の石塔^{せきとう}が建てられた。この石塔には元亨三年 (1323 年) の銘があり、県内では最古の石塔として重要文化財に指定されている。

別記

泰澄が創建した寺院（現存している寺院）は 134 寺。県別では福井が最多で 85 寺。県内で最多は丹生郡と勝山・大野郡の 17 寺。次いで多いのは坂井郡の 15 寺。福井市は 11 寺。

坂井郡内に於ける泰澄の遺跡。

経が岡^{きょう おか}・・・三国町上西

橋本の地藏堂・・・三国町橋本

宇根^{う ね}の観音・・・坪江村宇根

泰澄大師 21 歳のとき丸岡町長畝の豊原に来られて一字を建立されたとき、北方に光がさすので不思議に思われて当地に来られ、池の中を見られると観音像が水面に写ったので大師は早速十一面千手^{せんじゆ}観音像を自作され堂宇に祀られて補洛山^{ほらくざん}畝畦寺^{う ね}と号されたが、後に廃寺となったので、その跡に観音堂を建立したのである。越前国名勝誌より。

※ 江戸時代後期、日本各地の名所、年中行事を細緻な挿絵を交えての紹介本が出版された。
越前国名勝誌はその越前版。

吉谷の観音堂・・・竹田村吉谷

三国町新保の灌頂^{かんちやうじ}寺趾・・・三国町泥原新保

性海^{しょうかい}寺・・・三国町下西

大門の浄願^{じやうがん}寺・・・三国町大門

北潟^{あんらくじ}の安楽寺・・・北潟村

養老 3 年・719 年・。泰澄大師が当地に来られ薬師如来像を彫刻されて一字を建立されて安置されたお寺である。大師が白山の高峰より遠望さえられていると紫雲がたなびき奇異の思いをされて白山より当地にこられ驚かれたのは、当地西北には山を負い松樹が先年の色をなして前には湖に接している。これこそ法輪^{ほうりん}の地と喜ばれていると、突然老翁が現れ「我は北天を守護する牛頭天王^{こうずてんのう}である。衆生の病年を救おうと今此の地にきた。どうぞこの地に寺を建て我が願いを満たしてくれ」と語られて立ち去られたので不思議に思われたが我が意の如しと早速堂塔を建てたと伝えられている。

泰澄大師がこのとき、和歌一首を詠まれた。

かりそめの 雲隠れとは思えども 見えねば暗き 有明の月

その後天正 2 年（1574 年）の一向一揆の騒乱で焼失したが、豊臣秀吉が再興せられ寺領として山林を寄進せられている。

※ 法輪の地・・・釈迦の教えを広める地

※ 牛頭天王・・・神仏習合がうみだした神。厄病を司る神。

清慶寺・・・高須村

豊原寺・・・長畝村豊原

称念寺・・・丸岡町長畝

松龍寺・・・金津町前谷

由緒・泰澄大師白山修行中、帝釈天王降臨の奇端にあわれて白山より当地に来られ一字を創建されたのが当寺の起源である。その後天正 2 年の一向一揆の騒乱で焼失したのを承応元年（1652 年）逸秀上人が再建し、浄土宗に改宗した。

※ 奇端・・・不思議なこと。

※ 帝釈天王・・・仏教の守護神

演仙寺・・・坂井町油田

福田寺・・・本荘村下番

当寺は泰澄大師 75 歳の天平宝字 2 年（758 年）の創建された寺で、大師が平泉に在住のときに大師に仕えた弟子で当地に帰り大師を招いて上棟の式を挙行した寺で大師入寂後も平泉末寺として栄えた。文明 3 年（1471 年）蓮如上人に帰依して浄土真宗となった。

豊原白山神社・・・丸岡町豊原

泰澄大師 高嶋勝栄著 （昭和 54 年 9 月 ）より引用。

注釈（※）及びルビ記入は筆者。

まとめ

泰澄大師は謎の人物である。存在したか否かも不明である。おそらく庶民が複数の僧侶、修験者をモデルとして創造した（弟子の臥行者、浄定行者を含めて）超能力を有する僧侶、修験者であろう。だが当時の密教的性格を有した仏

教（修験者的要素を帯びた）の形。仏教と神道との関わり（本地垂迹）、宇宙への畏敬、山岳崇拝など自然崇拝に敬虔な人々の存在も泰澄伝説に描かれている。

泰澄は謎の人物であるが、伝説には庶民が理想とする宗教人像が描かれている。越前に根付いた仏教観を理解する上でも、また興味深い。（長谷川）